

GitHub、CircleCI、SonarCloudとの連携

連携後サンプル

- GitHub: https://github.com/logigear-japan/uitest_sample_android
- CircleCI: https://circleci.com/gh/logigear-japan/uitest_sample_android
- SonarCloud: https://sonarcloud.io/dashboard?id=logigear-japan_uitest_sample_android

連携の設定

特別な設定はなく、GitHubとCircleCI、GitHubとSonarCloudの設定をすることで設定は完了する。以下にその手順を簡単に示す。

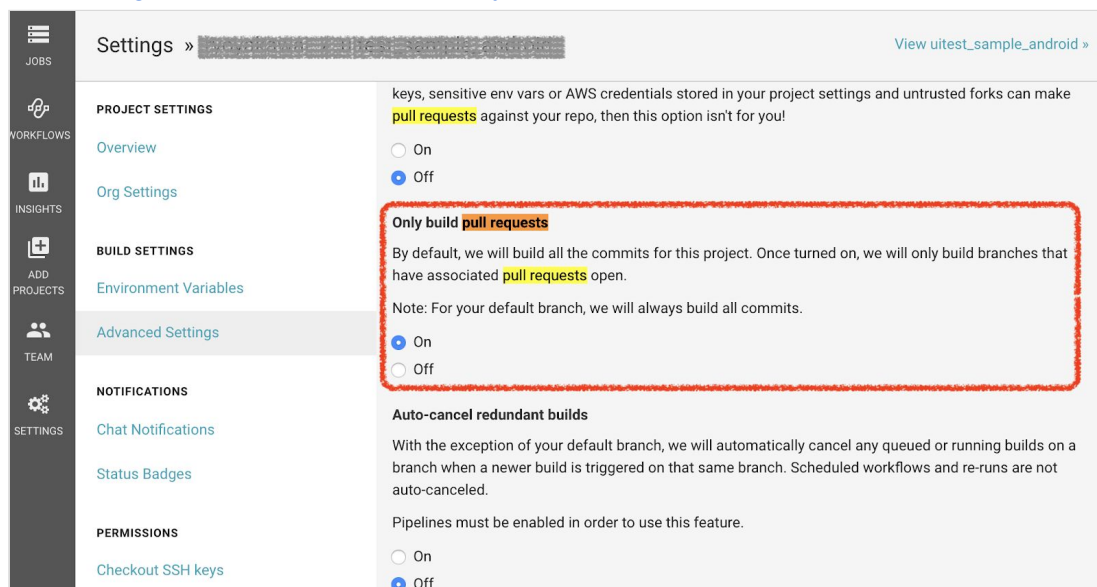
1. GitHubとCircleCIを連携する

[GitHub+CircleCI入門 - Qiita] <https://qiita.com/tatane616/items/8624e61473a9957d9a81>

2. PullRequest時にのみにBuildしたい場合は以下を設定する（デフォルトでは更新されたら常にBuildが走る）

[CircleCIでDangerを動かすためにOnly Build Pull Requestsの設定を調べてみた]

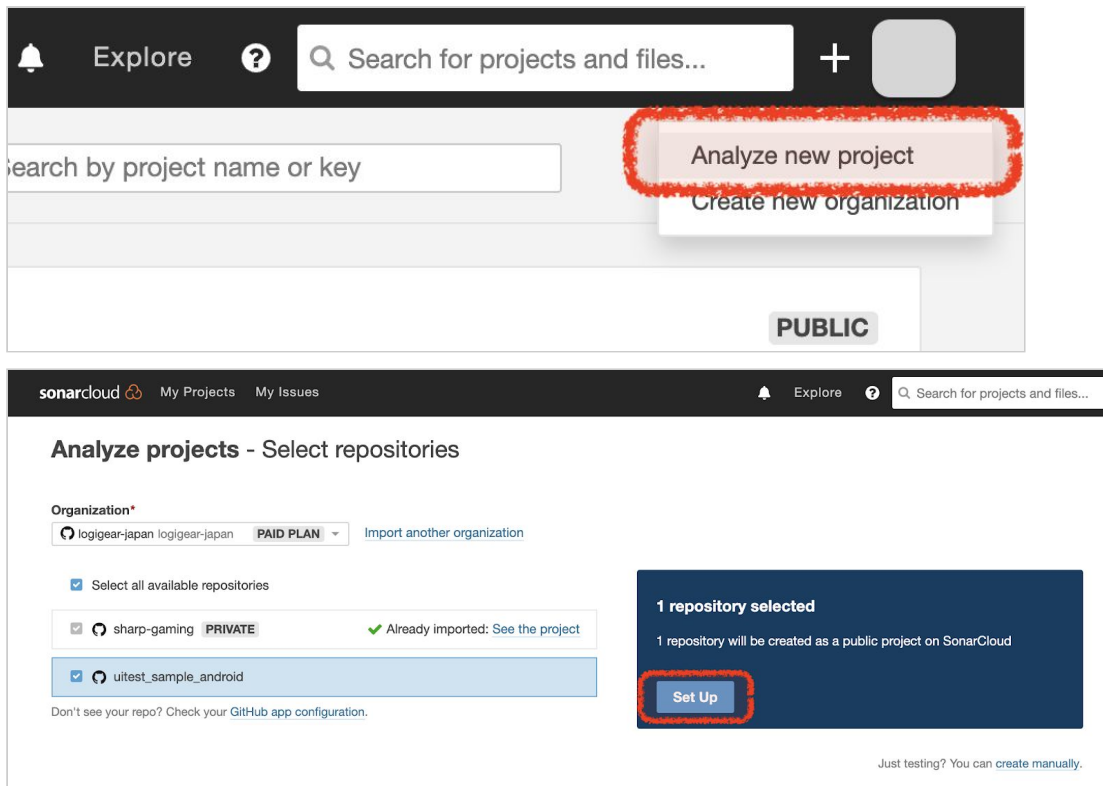
<https://blog.sshn.me/posts/circleci-only-build-pull-requests/>



3. Sonar Cloud (<https://sonarcloud.io/>) を設定する。

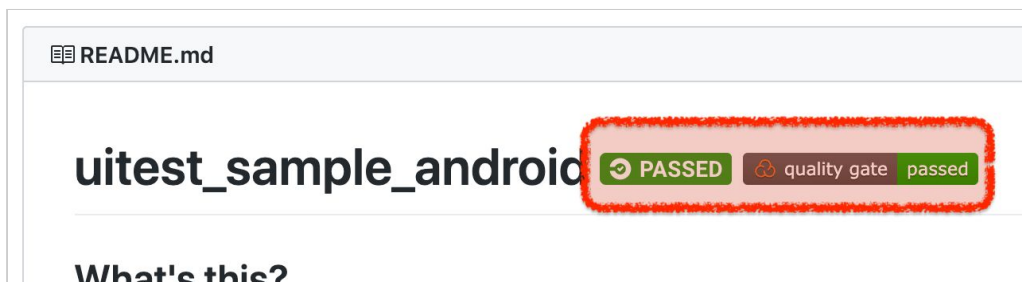
Publicなりポジトリに対しての解析&解析結果をPublicにするのであれば無料枠で使える（2020年4月現在）

4. GitHubとCircleCIを連携する。手順は以下の2つ。

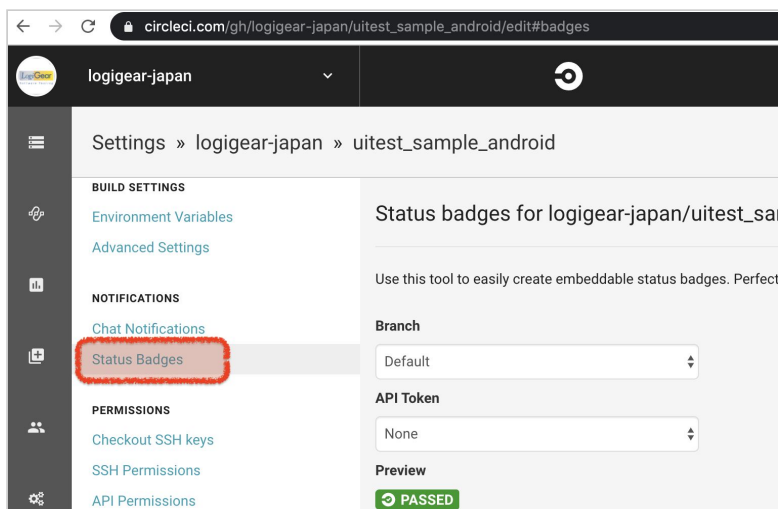


GitHubでそれぞれのBadgeを表示する

以下のようなバッジを貼ることができる。このバッジから設定されているメトリクスを確認する先へのリンクも貼られるので、まとめるには視覚的にも認識しやすく便利な機能。



- CircleCI :
プロジェクトの設定画面の左ペインの「Status Badges」から設定をしバッジのソースを得て、対象リポジトリの README.md にMarkdownとして貼ることで表示される。



- SonarCloud :

プロジェクトトップページの右ペイン最下段周辺からバッジのソースを得て、対象リポジトリのREADME.md にMarkdownとして貼ることで表示される。

